We live and learn!

栃木県立那須拓陽高等学校 農業経営科　1年　木村 日音

私は、酪農経営をしている家の三人姉妹の三女として育ちました。姉達と年が離れていたため、両親がいる牛舎で毎日遊びながら過ごしました。牛舎には幼い頃の私の落書きが今も残っています。私の最高の遊び場だった牛舎。いつも近くにいた牛達。大切な思い出。学校で嫌なことがあった時、心の拠り所になってくれた場所。私の姉たち２人は酪農の道に進まなかったため、私が酪農の道に進まなければ大切な牛舎は、牛たちは守れないと思い、心は決まりました。しかし、酪農経営は両親をみて育って来たため、家を継ぐという事は大変なのだと理解しています。けれど、私は小さい頃からの夢だった「酪農家」という夢を諦めることは出来ませんでした。そこで私は、時代の流れを考え、牛達と共に生きて行く覚悟と共に私の目指す酪農経営はと考えました。考えた中で私には今、２つの夢があります。

１つ目は、６次産業化です。昔、幼い私の為にジャージー牛を家畜商のおじさんが置いて行ってくれました。生まれてくるジャージー牛は中型犬位の大きさでつぶらなかわいい目をしています。私のかわいいお友達でした。何故かジャージー牛は我が家の牛舎と相性が良いらしく、今では20頭前後になりました。農場に来る方々から「ジャージー牛が沢山いますよね。」と言われています。私と共に遊んで育ったジャージー牛は人が大好きで、いたずらもしますが大切な仲間達です。このジャージー牛達をいかした経営をしたいと考えています。２番目の姉がチーズ職人になるため、現在、修行をしています。私は、姉と２人で我が家のジャージーたちの牛乳を使用して、私が搾乳をし、姉がチーズの製造をして２人で、６次産業化を目指したいです。ジャージー牛は乳脂肪分が高く、良質なタンパク質、ビタミン、ミネラルなどの栄養価が高いです。私はジャージー牛の、濃厚でコクのある牛乳を活かした、子供でも食べられる、口当たり柔らかなチーズをつくりたいです。また、美味しいチーズをつくるには乳質の向上、細胞数が低く安定した牛乳、牛乳にストレスをかけないことが大切なので、心がけていきたいです。ジャージー牛はお産のときに、ホルスタイン種よりも低カルシウム血症を起こすと命を落としてしまいます。その対策として牛の管理に力を入れ、チーズに使用するジャージー牛の牛乳について勉強していきたいです。私の家は、父がつなぎ牛舎からフリーバーン牛舎に規模拡大しましたが簡易型パーラーで搾乳をしています。パーラーが後継者としての1番の課題です。ホルスタイン種は搾乳ロボットで搾乳をし、ジャージー牛はロボットではなく自分で搾乳をし、ジャージー牛の個性を活かして乳質の向上を目指したいです。なぜなら、父はその日の牛の体調や行動を見て、乳質にこだわった経営をしています。経営者である父の経営の理念は、「我が子に飲ませる牛乳」です。そのため、牛と乳質を大切にしています。しかし、これからの酪農を考える上で、私は父の働く姿を見て、全ての

牛を自分で搾乳していくのもいいですが、仕事の時間縮小、牛の管理・自家飼料に力を入れたいと思いました。搾乳をロボットにすることで、誰でも仕事が出来る環境作りと牛の管理に力を入れたいと思いました。また、私の目指す経営理念は、私も牛も私の牛乳を飲んでくれる人も皆が幸せに、笑顔になれる経営を目指していきたいです。そして、尊敬する父のようになりたいです。

２つ目は、英語で体験できる教育ファームをつくることです。私は、起立制調節障害で４年間苦しみました。朝起きられず頭痛、目眩がひどく、血圧も上がらず、午前中に起きることが出来なくて学校に登校できない時期もありました。この病気は、自分の人生を決める時期に発症してしまうので、自分の身体も心もそして家族も苦しめてしまいます。この病気は必要に応じて血圧をあげる薬を処方されますが、対症療法しかありません。水分摂取と適度な運動、規則正しい生活が必要です。私は、朝に起きることが出来ず、普通の生活をすることが出来なくても夕方の牛舎作業と英語と英語のそろばんを教えてくれる先生の存在で先の見えない辛い時期を乗り越えることが出来ました。酪農と英語で海外に行ける。世界を見ることができる。英語のそろばんで右脳も育つ。きっと、辛い時期でも自分のためになるものはある。そして、辛い時期を乗り越えた先の自分の力になると思います。私と同じ病気で苦しんでいる子供達に少しでも希望を持ち、背中を押せるように、牛舎で牛達と共に過ごし、英語でそろばんを教えてあげたいです。そのために、私は教育ファームを夢に抱きました。教育ファームを目指すのは、私が幼い頃観光牧場で乳絞り体験をしたとき、温かい乳首から牛乳がでてくる感覚、感動を鮮明に覚えているからです。牛が身近にいる私ですが、家とは違う感動がありました。乳搾り体験では、牛から出てくる温かい牛乳や乳房に触れることで、命の温かさや尊さを改めて学ぶことが出来ました。この体験から、子供の頃の体験は宝だと思いました。そして、牛乳は牛から。その牛の命。その牛を思い、大切にしている沢山の人がいる。と体験してもらいたいです。また、身体を動かす農作業、動物のいる環境、視野を広げられ、世界と繋がれる英語を通じて、病気を乗り越えたその先にある可能性と想像しきれないほどの楽しい未来があることを私は伝えたいです。

私は、私の目指す夢を実現するために、海外留学をして、日本だけでなく、海外の農業を学び、広い視野と新しい視点で物事を考えられる人になりたいです。私の住んでいる地域は酪農家が多くいます。そして、困ったときや怪我をしたときなど、助けを必要とする時は酪農家同士助け合います。また、父と母が働いている姿を見てきて、多くの人と出会いました。例えば、牛たちの命を助けてくれる獣医さんや命を生み出してくれる受精師さん、牛乳を集めてくれる集乳車の方、業務を助けてくれる組合の方々、餌の設計を共に考えてくれる飼料会社の方など沢山の人に出会い、支えて貰いました。酪農を経営するということはひとりではできません。沢山の人に支えられています。この事から、感謝の気持ちを持ち、

これから先出会う、多くの人との繋がりを大切にして、様々な経験を積み、広い世界を一歩一歩自分の足で歩んでいきたいです。さらに、常に挑戦し続けられるように、チャレンジ精神と夢を抱いた今、この瞬間を忘れずに牛達と共に生きていきたいです。そして、私の目指す、私も牛も、私の牛乳を飲んでくれる人も皆が幸せに、笑顔になれる経営を実現させたいです。